



● 母子健康手帳の交付

保健師が、妊婦さんの体調などを聞きながら母子健康手帳の使い方や妊婦健康診査について説明を行ないます。交付場所は＜西合志庁舎＞健康づくり推進課です。また、健康育児相談時も交付しています。10月20日(火)ふれあい館、11月11日(水)泉ヶ丘市民センターです。日程は健康づくり事業計画表に掲載していますので、ご参照の上お越しください。印鑑と産婦人科から妊娠届出書をお願い、持参してください。

● 熊本市小児救急電話相談事業

相談時間：毎日・夜間
午後7時から午前0時
☎#8000
(ただし、ダイヤル回線・IP電話・光電話からは☎364-9999)

訂正とお知らせ

広報こうし9月号でインフルエンザ予防接種広域化事業についてお知らせしましたが、今年度は新型インフルエンザの対応を最優先させるため、導入を延期することが決まりました。65歳以上の人で合志市外や菊陽町の3医療機関(武蔵しもむら医院・てらしま小児科医院・よしもと小児科)以外で接種される場合は、事前に各庁舎・各支所で依頼書を発行しますので、印鑑をご持参のうえお手続きください。

問い合わせ先

健康づくり推進課 健康推進班(西合志庁舎) ☎242-1183

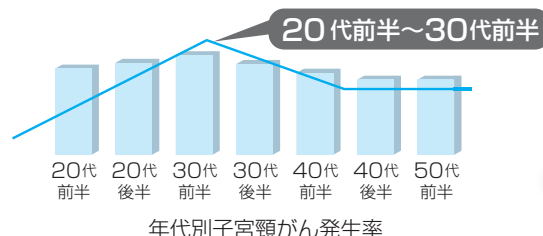
健康のすゝめ

問い合わせ先
健康づくり推進課 健康推進班(西合志庁舎) ☎242-1183

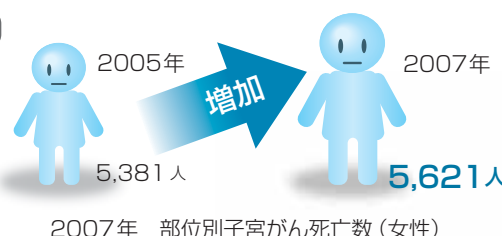
若い世代に増える子宮がん

がんのできる部位によって、子宮頸がん(けい)と子宮体がんに分かれます。子宮頸がんは若い世代に増加しており、ヒトパピローマウイルスというウイルスの感染に関係が深いがんです。子宮頸がんは早期発見すれば、治りやすいがんです。正常でない細胞が浸潤がんになるのに2～3年かかります。定期的に検診を受けることで、がんになる前の段階で診断することが可能です。また、早期がんのうちに発見して治療すれば、ほとんど治癒が望めるがんですので早期発見は重要です。

子宮がんになった人の数は？



増加する子宮がん死亡者数



ぜひこの機会に
子宮がん検診を
受けましょう！

乳がん検診・子宮がん検診のご案内

今年度、検診を受ける機会がなかった人を対象に、12月～平成22年2月末まで下記の医療機関で乳がん検診と子宮がん検診を実施します。この機会にぜひ受診することをお勧めします。
※医療機関での乳がん検診は乳房超音波と視触診、子宮がん検診は子宮頸部細胞診です

持参する物

- ① 問診票(既に申し込みをしている30歳以上の人は、11月中旬以降に問診票を送付します)
※20歳代で子宮がん検診受診希望の人、また申し込みをしていない人は市役所各庁舎・各支所(泉ヶ丘市民センター・須屋支所)にお越しください。
- ② 保険証
- ③ 検診料金

	個人負担金		委託医療機関
乳がん検診	30～69歳	1,500円	庄嶋医院 ☎242-3388(要予約) 検診受付日時 月～金曜日 午後2時～5時
	70歳以上	500円	三隅胃腸科内科外科医院 ☎248-6161(要予約) 検診受付日時 月・火・水・金・土曜日 午後2時～5時
子宮がん検診	20～69歳	1,600円	産科婦人科大竹クリニック ☎344-3232(予約不要) 検診受付日時 月・火・水・金曜日 午前9時～午後1時 午後2時～7時 木・土曜日 午前9時～午後1時
	70歳以上	600円	池田クリニック ☎248-8600(予約不要) 検診受付日時 月・火・木・金曜日 午前8時30分～12時30分 午後2時30分～5時30分 水・土曜日 午前8時30分～12時30分

乳がんってどんな病気？

乳がんで亡くなる人の数は？

	部 位	人 数
1位	大 腸	19,003人
2位	肺	17,917人
3位	胃	17,446人
4位	すい 臓	11,594人
5位	乳房	11,322人

2007年 部位別がん死亡数(女性)

増加する乳がんの死亡者数



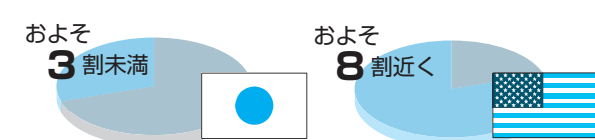
今、日本女性の20人に1人が、生涯の間に乳がんにかかるといわれています。亡くなる人は年々増加し、今では約1万人にもものぼります。30歳から64歳までの働き盛りの女性では、がんによる死因のトップとなっており、この30年間で死者は3倍にも増えています。乳がんは早期発見が重要で、早期に見つければ比較的治りやすいがんです。

欧米では、がんによる死亡はほぼ横ばいです。一方、日本では依然増加傾向にあります。一体なぜこんな違いがあるのでしょうか？

ひとつにはがん検診の受診率の違いとも言われています。日本のがん検診受診率は、3割に満たないと言われていましたが、アメリカの受診率は8割近くにのぼります。

乳がんは、細胞ががん化して増え始めるとしこりになりますが、初期には全身症状がほとんどないため放置されやすいものです。症状がなくても、30歳を過ぎたら年に1回の検診受診をお勧めします。

日本とアメリカの検診受診率



毎月のセルフチェック

乳がんは身体の表面に近い部分に発生するため、観察したり触れたりすることで自分でも見つけることができる数少ないがんのひとつです。生理が始まって1週間後、乳房のはりや痛みがなくなり柔らかい状態の時に自分でチェックしてみましょう。閉経後の人は毎月1回セルフチェック日を決めて行ないます。

指でふれてチェック

お風呂やシャワーの時、石鹸がついた手で触れると乳房の凹凸がよくわかります。4本の指をそろえて、指の腹とろっ骨で乳房をはさむように触れます。「の」の字を書くように指を動かします。しこりや硬いこぶがないか、乳房の一部が硬くないか、わきの下から乳首までチェックします。乳房や乳首をしばらくして乳首から分泌物が出ないかを調べます。



乳がんのできやすいところ

